



Quarterly KAKU

2012 冬

創刊号

書く
描く
此く
画
殻
客

……

「ものをかく」ということは、どういった筆記具を使うにしろ、それはあらゆる側面を持っている。

単に文章を書くことにとどまらず、読み手と書き手、そして読んでいない人も含めて生まれる核融合が「ものをかく」ということの醍醐味だと思っている。

権谷達哉

小説

時流の愛 ～ LOVE IN THE TIDE OF TIME ～ … 3	
その手を離さない ……………	29

乙協康彦

詩

ニンゲンと意味の新しい関係。

魚 ……………	38
明日 ……………	40
建築 ……………	42
罪 ……………	44
猫 ……………	46
犬のしあわせ ……………	48
人間の分類 ……………	50
日日のクレヨン ……………	52

著者紹介 ……………	54
------------	----

編集長＝乙協康彦
副編集長＝権谷達哉
© 2012 Sougeisha Publications Inc.

表紙・題字＝乙協康彦



ニンゲンと意味の新しい関係。



乙脇康彦

魚

恋人の枕は 秋刀魚の味がした

すらり

すらり

衣摺れのような音を立てて

そいつは青から黄色へと血色をかえた

後頭部から血の気が引く

マグロのような心地がした

へ三千里の道を行くは、我が彷徨える魂

鯡のような軽快さで友が言う

鯖にも似た 死んだ目をした市役所職員が

印鑑証明と住民票を渡してくれた

びちびちの声 死んだ顔

へ人生は短い。争ってる暇なんてないのさ、兄弟

鯨の干物をアテに 父が酒を飲む

昼の都会は

浜辺にあがった瀕死の鯨

自由を求めて

意志に反する新たな場所で

動けなくなっている

明日

きのうの自分が あらわれて
おいで、おいでと 言っている
未練という名の 質量が
これ見よがしの 旗をふる

「待っておくれ」の ひとことを
言おう、言おうと するけれど
自分のなかの 幼さが
その自らを ねじ伏せる

後ろを向いて 歩くのは
人間だけだと 言うけれど
後ろ向かずば 言えないの
「サヨナラ」という その言葉

さてもさて

あすは我が身と 心得まして
三者三様 なんでもござれ
緋色の雲に サヨナラ言って
みつけましょう

建築

建築。

人間の奢りの象徴

嘘の結晶化

墓地の前世

嫌悪と嫉妬の仇

「くらし」に覆いかぶされたヴェール

禁じ得ぬエゴ

歴史の改竄

自然に対する偽善的態度

芸術の冒瀆

インテリジェンスの無駄遣い

コピー・アンド・ペースト

街の哀しい吐息

鴉の寢床

名前のない男

壁

そして

百万人の生きる道

罪

事実を言う者に罪はなく、
真実を言う者に罪がある

だから叙事詩というものは

白痴のようなタブラ・ラサ

言葉の技巧に染まることなく

日の入り時刻に日が沈む

磨き抜かれたレトリック

多くの人を騙します

裸の自分を見せたフリして

今日もあなたを騙します

さればとて

罪ある者の定めとて

罰に追われる夢見れば

それも楽しさ 心得る

嗚呼、人間のもろさ

自分だけカッコよければいいんだ

著者紹介

権谷達哉（ごんたに・たつや） 小説



兵庫県尼崎市生まれ。二〇〇七年より執筆活動を始める。
平成二十一年、『時流の愛』でコスモス文学新人賞入選。
L⇄Gレコーズ代表。
オフィシャルウェブサイトを <http://gontatsu.blogspot.com/>

乙脇康彦（おとわき・やすひこ） 詩・写真・ブックデザイン



石川県珠洲市生まれ。
二〇〇四年年より写真活動を、二〇一一年より詩作をはじめ。

かく 第1号

二〇一二年四月三〇日 第一刷発行
二〇一二年七月三〇日 第三刷発行

著者・発行者 権谷達哉・乙脇康彦

監修・写真 乙脇康彦

発行所 双芸舎

〒九二七-1201
石川県珠洲市正院町飯塚1-20-1